

不登校予防のための早期対応を！ 全職員で！！

子どもたちの最近の登校の様子はいかがでしょうか？ 欠席した子どもの状況から「不登校の兆候かもしれない」と感じたらすぐに早期対応を始めることが不登校予防につながります。欠席した子どもの対応について学校の早期対応システムをつくって共通理解を図り、全職員で協力して共通実践をしましょう！

不登校予防のための早期対応のポイント

欠席 1 日目

たとえ病欠であっても、欠席したことで翌日の登校を不安に思う子どももいます。放課後などの電話で子どもの話を聴いたり翌日の予定を知らせたりして、登校への不安を取り除きましょう。

連続欠席 2 日目

子どもの最近の状況をチェックしてみましょう。

- 表情がさえない、顔色が悪い
- 遅刻・早退が増えている
- 保健室の利用が増えている
- 友人関係でトラブルがあった
- 休み時間に一人である
- 授業中のグループ活動がつまらそうである
- 家庭環境に変化があった
- 兄弟姉妹の欠席が増えている

状況によっては電話ではなく、子どもや保護者に会う必要があるかもしれません。直接会っておくことが、その後の関わりにもつながります。

連続欠席 3 日目以降

欠席が長期化する兆候と捉えて、関係職員でチームを組んで、登校への支援を始めましょう。子どもと関わりが深い先生が担任と一緒に家庭訪問をしたり校門で子どもを出迎えたりするなどの方法を考え、チームで情報共有と役割分担をしましょう。

不登校予防の早期対応システム〈例〉

連続欠席の場合

欠席 1 日目

【電話】を掛けて、子どもの声を聴きましょう！



「心配したよ。今の調子はどうかな？」

- ◇子どもの状況を把握・保護者からの情報収集
- ◇病欠の場合：病状と医療機関の診察の確認

連続欠席 2 日目

【電話】または【家庭訪問】をしましょう！



「休みが続いて、心配しているよ！」

- ※家庭訪問をする場合は、事前に電話連絡を入れます。会えないときのために「心配している」気持ちを伝える手紙を用意しておきましょう。
- ◇子どもの状況を把握・保護者からの情報収集
- ◇病欠の場合：病状と医療機関の診察の確認

連続欠席 3 日目

【家庭訪問】をして、子供に会いましょう！



「休みが続いたので、心配で顔を見に来たよ！」

- ◇子供の状況を把握・保護者からの情報提供
- 【チームでの支援】を始めましょう！



「明日もお休みなら、一緒に家に行きませんか？」

- ◇登校の支援の方法や役割分担の確認

※いじめが疑われる場合は、直ちに覚知報告を行い、校内いじめ対策委員会を開催します。

